

【研究主題】

未来の社会をつくる「学びの主体者」の育成

未来の社会とは、いったいどんな社会であろうか。現在から過去に遡って考えたとき、社会の状況の変化の速さと予想外の展開に驚きを覚える。阪神淡路大震災から東日本大震災、そして新型コロナウイルス感染症の蔓延。急激に進む少子化、義務教育年齢の児童生徒に浸透するスマートフォンを中心とするSNSの台頭。そのような背景から進み出している新たなICT社会。今の生徒たちが大人になり社会の成員者となったとき、そこで豊かな生き方が自ら構築できることを願ってやまない。そして願わくば所属するコミュニティで、生き生きと活躍する存在であってほしいと期待する。

研究主題の「未来の社会をつくる学びの主体者の育成」には、私たち教職員のそんな思いが込められている。

近い将来、どのような状況であれ、そこに人が存在する以上コミュニティは存在し続ける。そしてより良い社会を創造しより良い生き方をしていくためには、そこにいるそれぞれの人が果たす役割は少なからず存在し、それを果たす義務を誰もがもっている。またそうでなければならない。

そう考えると、人間社会が継続する以上、より良い社会や生き方を追い求める「学び」や「活動」は、そこにいる人が果たすべき義務といえる。

学校教育において、この果たすべき義務を主体的に遂行し、そこに集う人々との協働的な活動を通して、良き人間関係を構築できる力を備えた人を育成するには何をすべきだろうか。今の学校教育でできることを模索しつつ、実践した過程をここに報告する。

そして、この研究に対する多面的多角的な視点でのご指導・ご助言等を賜り、より良い学校教育につなげていきたいと考えている。

日時 令和7年2月14日（金） 13:00受付開始

場所 練馬区立豊玉中学校 各教室および体育館

講師 東北大学 応用認知神経科学センター
助教 榊 浩平 先生

演題 「平成生まれの脳科学者が小中学生1人1台端末時代に伝えたいこと」



練馬区立豊玉中学校